



THE Y'S MEN'S CLUB OF

TOKYO HIGASHI

CHARTERED 1988

2017-2018 年度  
3月号  
NO. 342

〒135-0016 江東区東陽 2-2-20 東京 YMCA 東陽町センター内 TEL03-3615-5565

強調月間

BF / ネット

国際会長：Henry Grindheim(ルウエー) 主題：「ともに、光の中を歩もう」  
アジア地域会長：Tung Ming Hsiao(台湾) 主題：「ワイズ運動を尊重しよう」  
東日本区理事：栗本治朗(熱海) 主題：「広げよう ワイズの仲間」  
関東東部部長：長尾昌男(千葉) 主題：「義務を果たして、クラブと関東東部の活性化を図ろう」  
東京ひがしクラブ会長：金丸満雄 主題：「楽しもう ワイズ!!」

### 3月例会

とき 2018年3月8日(木)  
18:30~20:30  
ところ 東陽町センター視聴覚室

★プログラム：司会：野本多美子  
開会点鐘 会長 金丸満雄  
ワイズソング / ワイズの信条  
開会挨拶 会長 金丸満雄  
ゲスト紹介  
食前の感謝  
卓話：「新しいボールを投げ続けよう」  
=1/1(いちぶんのいち)の視点の新商品開発-  
磯部成文氏  
(東京北クラブ / フットマーク株代表取締役)  
関東東部部長公式訪問  
スマイル  
各種報告  
閉会点鐘 会長 金丸満雄

### 今月の聖句

『平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。』

—マタイによる福音書第5章9節—

### 忘れまじ「東京大空襲」

奥峪 力

3月9日の夜半、B29が近づいていることを知らざる警戒警報のサイレンが鳴った。やがて来る空襲警報に備えて電燈を消し終わったその瞬間、大きな地響き共に爆弾の炸裂する音を間近に聞いた。外に出て見ると100m程離れた道路沿いに大きな火柱が立ち上がっていた。その火は見る見るうちに周りの家に燃え広がり、火の粉を地吹雪の様に叩きつけ、道路一面を真っ赤な火の帯と化せしめた。程なく到着した消防車の給水ホースは、水が通る前に無惨にも寸断されて行った。最初の爆弾が近くに落ちたので私達は比較的早くに非難が始められた筈だったが、それでも目指す洲崎の原っぱまでは逃げ切れず、火に囲まれる中、営林署貯木場で危うく九死に一生を得たのだ。水に浮いている太い丸太が燃え出すなんて事を、誰が想像出来るだろうか。空からトタン板や大きな火の粉が飛んでくる。火の粉と言っても、それは大きな火の固まりである。その火の固まりが水面の丸太の上に引っかかると、その火種は強風によって炎に変わり燃え始める。上が燃え終わると軽くなった分、丸太は水面に浮上し更に燃える。燃えては浮き、浮いては燃え続けるのであった。想像もつかない現象である。火に追われて非難する途中、屢々馬がかたまって疾走するのに出遭った。当時はガソリン不足の事情もあるが、運搬には馬車を多く用いていた。砂町の辺りには、そうした馬が沢山おり、その馬を繋いだまま殺してしまつては可哀そうだと言うので、馬方がみんな綱を切って放した。そうした馬達が火に追われて、何十頭と群れをなして逃げ廻ったのである。療原の火に追われて走る、西部劇で見る馬さながらの姿だった。翌朝、人の焼死体にまじって馬の

### 2月例会

出席者 9名 ネット 名  
会員出席数 8名 ゲスト 1名  
在籍数 12名 メイキャップ 名  
(広義会員2名)

ひがし会員出席率 80%

### スマイル

2月7,000円

累計 55,000円

### 2017-2018年度役員

会長 金丸満雄  
副会長 飯田歳樹  
書記 須田哲史  
会計 鮎澤正和  
担当主事 沖 利柯

死骸を幾つも見た。中には死に切れないで息も絶えだえて横たわっている馬もいて、正視出来なかった。3月10日は馬達にとっても悲しい出来事の日だったのである。

震災の直後、親爺と私は兄の消息を求めて、親戚や深川近辺の病院、救護所を尋ね歩いた。もしかして病院の廊下でも虫の息で横たわっているのではないだろうか、知り合いの誰かが避難途中の兄の様子を知っていないか、そんな一縷の望みを抱いて探し歩き続けた。深川に行ける最も近い駅は国電の神田駅で、そこから見渡す限りの焼野原を通り、清洲橋を渡って深川に入る。隅田川を渡る時、川に累々と死体が浮いていた。何故かその死体は皆、腰を折った形状で尻を浮かして流れていた。それもポツンポツンと流れているのではなく、くっつき合うようにして沢山の死体が流れていた。川の流れる滞るところでは、死体が幾百と山の様になっていた。中には母親が子供を背負ったまま死んでいる姿もあって、全く見るに堪えない地獄絵であった。結局、兄は還らなかった。

我が家の向かいの家では、一家五人が全滅。左隣りの家は学童疎開の子供一人を除いて親子三人が犠牲、反対隣りの家では四人家族のうち二人が亡くなった。酷い話だ。

戦争には、戦地も銃後もない。軍民を問わず、凡ての者が間違いなく犠牲に追いやられる。「東京大空襲」を体験して、そのことを強く感ずる。幸いにも今、世界は冷戦の時代から協調の時代へと変化しつつある様に見える。が、歴史は愚かな空しい戦争を繰り返して来た。愚かさや繰り返さないために、多大な犠牲を払った貴重な記憶を風化させてはならない。

(ひがしクラブ発行「セノタフマップ」より)

※1945年3月9日の夜半から10日未明にかけての東京大空襲。特に江東区の被害は甚大で区内の死者約32,000人と伝えられています。そのことを江東区内28ヶ所に建てられた戦災慰霊碑が語ってくれます。

第24回ピースウォーク(ひがしクラブ主催)は、3月10日(土)に区内12ヶ所の戦災慰霊碑を巡ります。

## ◆◇ 2月例会報告 ◇◇

### 鮎澤正和

2月例会は「東京YMCAにほんご学院」校長の小野実氏を迎え「日本の留学生事情」という話を伺った。

留学生とは留学ビザを取得して日本に勉強に来ている外国人で全国で26万人、その内日本語学校で学んでいる人は約7万8000人、更にその内の150人が「東京YMCAにほんご学院」で学んでいる。国別でいうとベトナムが57%が一番多く、中国、ネパール、スリランカ、台湾と続く。更に言語でいうと漢字圏と非漢字圏に分かれ教え方も違って来る。YMCAでは全国にある日本語学校の講師のネットワーク等で互いの良いところを取り入れて授業に生かしている。彼らが日本に来るには、母国で一定の学校教育を受けている、日本語をある程度勉強している、授業料2年間で約130万円他金銭面での心配がない(サポーターがほしい)等、かなりハードルが高い。ハードルは高いが彼らはそれだけの意欲を



持ってやっているので習熟度はなかなかのものがある。卒業後は専門学校進学が約50%、大学進学が30%、帰国(台湾人が多い)10%、就職その他となっている。東京YMCAにほんご学院では「互いを認めあい、高めあう、ポジティブネットのある、豊かな社会」を目指して日本人として彼らに何を伝えられるか、を常に考えている。概ねこの様な話であったが違っているところがあったらご容赦願いたい。進学というと日本語の入学試験を受け(我々でさえ危ういのに設問を理解し回答する)栄冠を掴みとるというのは大変なことだと思う。それだけに周囲の期待に応えたいという熱い思いを十分に理解してあげたいと思う。最後に、にほんご学院スピーチコンテストの話を伺い卓話は終了した。

\*スピーチコンテストは一見の価値があるということなので次の機会には聞きに行きたいと思う。



## YMCAコーナー

### 担当主事 沖 利柯

#### ▼下町子どもダイニングお試し版

3月2日に下町子どもダイニングお試し版の2回目が開催され、20名の子どもと4名の保護者が参加しました。当日は、社会体育・保育専門学校の学生も4名参加。事前準備をした手遊びやレクリエーションで楽しんだ後、煮込みハンバーグ、卵サラダ、そしてわかめスープといった栄養満点の食事を皆で楽しくいただきました。

いよいよ4月からは本格的スタートとなります。引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。



#### ▼クリスマス募金ご報告

会員部にて呼びかけたクリスマス募金は2月1日現在、総計2,236,917円のご支援をいただきました。国際協力募金、フレンドシップファンド、東日本大震災復興支援募金、熊本地震復興支援募金、障がい児プログラム支援として用いさせていただきます。ご協力有難うございました。

#### ▼東陽町コミュニティーセンター事務所

4月2日(月)より、東陽町センター1階に地域の拠点として新しくオープンします。

原則月曜日～金曜日の9:30～17:30 オープン予定で準備しております。お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

電話：03-3615-5565

FAX：03-5635-1023



#### ★今月の誕生日

須田哲史さん(1日)

斉藤蓉子小姐(6日)

